



「神奈川リフレッシュプログラム」

2015 年報告書

福島子ども・こらっせ神奈川

後援

檜葉町 檜葉町教育委員会 山北町 山北町教育委員会
神奈川県 神奈川県教育委員会 (財) 神奈川県高等学校教育会館

このプログラムは「かながわボランティア活動推進基金 2.1 (ボランティア活動補助金) 対象事業」です

謝辞

皆様のご支援ありがとうございました 第4回「学習と保養」プログラム成功裏に終了しました

私たち「福島子ども・こらっせ神奈川」は、いろいろな思いの中で福島に居住することを選択した家族との生活でストレスを抱える小・中学生の「健康と学習」の支援が必要であると考え活動してきました。

2011年3月11日の地震と津波による災害は、過去の経験を真摯に受け止めきれず、対応できなかったことなど反省すべき点があります。原発災害は、コントロールも最終処分もできずに来たことを考えなくてはなりません。私たちはこれらに対しまじめに取り組む姿勢が求められています。

福島県は、4年の時間経過の中で、地元への帰還を始め復興への動きを強めています。帰還を考えるにあたっては、生活は保障されるのか、雇用が確保できるのか、生活環境が整うのか、中でも子どもたちの健康は心配ないのか等の問題で思い悩む方が多いと聞きます。私たちとしては、現に生活する子どもたちの健康と学習を支援することは、一層重要になっていると考えています。

こうした中で、本年も4回目のプログラムを福島県檜葉町、檜葉町教育委員会、神奈川県、神奈川県教育委員会、山北町、山北町教育委員会、(財)神奈川県高等学校教育会館などのご後援と、多くの団体・市民のご支援をいただき実施することができました。ご支援ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

今回は、過去3回に参加した生徒を含め小・中学生23名の参加を得て実施しました。今回の特徴は、小学生が大半で3年生など低学年も参加したこと、大学生ボランティアが主体的に活動してくれたこと、山北の三保小学校の生徒全員と交流できたことなどです。学習、川遊びなどは地元教育委員会のご協力を得て安全で充実したものとなりました。また川遊び、バーベキュー、キャンプファイヤー、横浜散策も行い、楽しい4日間を過ごしてもらいました。

参加者した子どもたちからは「楽しかった」「面白かった」「勉強も進んだ」などの感想が寄せられました。移動教室につながる国の予算が措置されたこと、若い大学生の力も大きくなってきていること等力強い状況もありますが、現地の状況が厳しさを増していることなどを踏まえ、私たちとしては、支援活動を続ける方途を追求したいと思っています。

皆様のご支援ご協力を感謝し実施報告と御礼とします。ありがとうございました。

「福島子ども・こらっせ神奈川」代表 山際正道

プログラム

日 程 2015年8月3日(月)~6日(木)

場 所 山北町中川温泉丹沢荘

8月3日	いわき出発	オリエンテーション・レクリエーション	ウェルカムパーティー・花火大会
8月4日	学習	ウォークラリー	星空ウォッチング
8月5日	レプリカ作り	川遊び・スイカ割り・BBQ	キャンプファイヤー
8月6日	横浜に移動	みなとみらい散策・横浜出発	いわき到着

8月3日(月)



長旅、おつかれさま、待っていたよ！



ウェルカムパーティーは、子どもたち・学生そして事務局のスタッフの方々を含め和やかなムードで行われました。宿泊先の丹沢荘の美味しいご飯を前に会話も弾み、子どもたちの長旅の疲れも癒されたかと感じました。山北町の湯川町長、山北町教育委員会の加藤先生からのお言葉もいただき、改めてこのプログラムは多くの方々に支えられて行われているものなのだと実感しました。(大町奈津美)



「みんな優しくてフレンドリーでめちゃめちゃ安心しました」



ウェルカムパーティーに、山北町の湯川町長も来ていただきました！



「花火がきれいだった。またやりたい〜！」



花火をするのが久しぶりだったりする子どもも多く、始める前からとてもワクワクしているようでした。準備には子どもが2人も手伝いに来てくれ、優しさにふれることができました。線香花火を残して、花火大会スタート！！色々な種類の花火を楽しみました。子どもによって反応は様々でしたが、楽しむ雰囲気を味わっていたように感じます。最後はきれいでちょっぴり切ない線香花火で幕を閉じました。(松田優希)

8月4日（火）



「今日は勉強がいっぱいすみました」



学習活動では、3時間近くの長時間であったにもかかわらず、子どもたちは集中して自分の勉強に取り組むことができました。それには子どもたちの努力はもちろん、大学生ボランティアや山北町の先生たちの熱心な応援も大きかったのではないかと思います。また、部屋別の班とは違った組み合わせであったため、コミュニケーションの場としても大きな意義があったように思います。（清水雅大）



「暑かったけれど楽しかった」



事前に下見に行ったり、クイズの内容は星空ウォッチングや横浜散策につながるものにして考えたり、準備にたくさん時間をかけて作り上げました。子どもたちは、私たちの予想よりもはるかに短い時間であつという間にゴールにたどり着きました。スタッフの1人から「おいしい料理と一緒にだね。手間をかけて作って食べるのは一瞬。」という言葉がいただいたことが、強く印象に残っています。（山崎由里恵）

子どもたちは班のメンバーで行動する中、地図を読んだり、真剣にクイズに答えたりと一生懸命取り組んでいました。また、1つミッションをクリアすると次のことへどんどん突き進み、好奇心旺盛な姿が見られました。炎天下の中の活動であったため、具合が悪くなる子がでないか心配でしたが、全員無事にウォークラリーを終えられて良かったです。そして、結果はなんとどのチームも正答数が同じという優秀な成績をおさめ、子どもたちの問題解決能力・発想力にあっばれでした。（平戸萌子）



「メダルをもらったことが
思い出になります」



フランケン優しい力持ち!!!

星座のお話では、さそり座を紹介して下さる際にホルマリン漬けの本物のさそりが登場。子ども達は驚くとともにとても興味津々にさそりを見つめていました。また、実際に隕石をもたせて頂き、子供たちはあまりの重さに嘖然！家族に自慢すると嬉しそうでした。翌朝のレプリカ作りでは、三葉虫とアンモナイトを作り、それぞれが個性豊かに色付けを行いました。(梅津彩)



富川先生の星空ウォッチングは雲が邪魔して中止、
かわりに星空のお話し  「星が見られなくて残念！」

8月5日(水)



加藤先生のリードで歌の練習
隣りは山崎三保小学校校長先生



レプリカ、うまくできたかな



「三保小学校の皆と仲良くできて楽しかった！」



「川遊びは久しぶりで新鮮！」



はじめに三保小学校の元校長先生である、加藤先生にアイスブレイクを行って頂きました。その後、川遊びを始め、最初は三保小学校とこらっせの子どもたちとの間には距離感があったものの、学生が架け橋となることで互いに水をかけあったりなど仲良くなれたグループも多く見られました。途中にスイカ割り。指示出しなどを通して楽しんでいました。全体を通して、子どもたちは楽しそうに川遊びをしている姿が印象的でした。(菅田薫)



川遊びは得意の
三保小学校のみんなと



「スイカ、甘かった」





 「お肉がおいしかった！」



バーベキューの火おこしを手伝ってくれた子たちは、熱さと煙に苦戦しながらも、一生懸命薪を組んだりうちわで火を扇いだりしてくれました。火が起った後も、班の友達と協力してお肉や野菜を焼いたり、焼きそばを作ったりと、子どもたちは大活躍でした。学年も学校も関係なく、班で協力して焼いていたのがとても印象的で、ケンカもしたけれど、バーベキューを通して山北の子と福島の子の距離がぐっと縮まったように感じました。(影浦あゆみ)



「火の神」が点火



大学生が「RYUSEI」のパフォーマンス



エールマスターは加藤先生

 「キャンプファイヤーが一番楽しかった」



キャンプファイヤーは、川遊びに引き続き加藤先生に司会進行をしていただき、火の神から授かった光り輝く炎を囲んで様々なレクをしました。こらっせの子ども、そして、三保小の子たちに加え東京・調布の子たちも混ざった大人数でのキャンプファイヤー。大自然の中でのキャンプファイヤーを通じ、仲間たちとの絆を深め、炎に負けないくらいの明るさで楽しく過ごすことが出来たと思います！（岩成銀河）

8月6日（木）



コスモワールドでは、お化け屋敷、4Dシアターなど
アトラクションにたくさん乗りました！

子どもたちはコスモワールドで、ジェットコースターに乗ったり、お化け屋敷に入ったりと大変楽しんでいる様子でした。また、子どもたちだけで遊園地に来る事が初めてだったので、班で楽しむ方法を少しでもアドバイスしたところ、お金の計算をしたり、乗り物を決めたりと、自分たちで話し合い、全員が楽しめるように工夫している姿が印象的でした。(粟ヶ窪瑤子)



 「みんなにおみやげを買ったよ」



 「大学生のお姉さんとおそろいだよ」



ランドマークタワーの展望台から

待ちに待った“横浜散策”。班ごとに買いたいものや見たいものがあったようで、終始目を輝かせていました。中には父親の誕生日プレゼントを買うために奔走する子も。集合時間が近づくにつれて子どもたちの顔色に変化が見られ、「まだもう少しいたい」とか「また来年来たい」といった声もありました。普段目にすることも体験することもない施設での経験は、彼らにとって良い思い出になったと思います。(駒木根 怜)



 「楽しい時間はあっという間でした」



 「たくさんありがとう！
別れるのはさびしいけれどまた会おう！」

学生・スタッフの感想

- プログラムは4日間という短い期間ではあるものの、子ども自身が先のことを考えながら自主的に準備をするようになったり、高学年の子が低学年の子の面倒を見るようになったりと、様々な成長を見ることができ、とても頼もしい場になっています。また、成長しているのは子どもだけではなく、参加している私たち大学生スタッフも、子どもとの交流、イベントの企画などを通じて、多くのことを学ばせていただいています。(窪田桃子)
- 4年目のプログラムは、学生ではなく事務局スタッフとして参加しました。毎年、プログラムに参加するスタッフや子ども達は違いますが、素敵な子ども達に会えるのが本当に楽しみです。子どもに会うと今までの疲れが吹き飛び、更に元気を貰えます！まだまだニーズがある限り、自分の出来る範囲で継続的に活動をしたいと思っています。今後は、変化するニーズを把握し、自分も成長することが必要かもしれません。(横山満里奈)
- 短い期間に自然が豊かな山北と日本を代表する都市横浜で過ごす「リフレッシュプログラム」の最大の特徴は、子ども達の気持ち分かる大学生が生活を共にすることだろう。楽しく過ごした子ども達は、たくさん思い出ができたと思う。今年は特に大学生が事前調査までして企画をつくったり、全体の進行役をこなすなど活躍が目覚ましかった。成長する子供達とよりたくましくなる大学生達に大きな刺激を受けました。(蜂谷隆)
- 今年は、いわき市小太郎公園からバスに同乗することで、明るく送り出す家族の姿を見ることができました。子どもたちの様子も身近に感じて、幸先の良いスタートが切れました。学生ボランティアが企画・実施したプログラムを子どもたちが大いに楽しんだことが印象に残りました。全体的にはまとまりのある、盛り沢山の「リフレッシュプログラム」でした。いわき市の「空の家」での大学生のみなさんの交流活動も輪となっています。(工藤妙子)
- 23人の子供達が、家族から離れ、やさしい大学生たちと過ごしたこの夏。山北の小さな小学校の生徒達と一緒に見つめた、ファイアー。色んな人に支えられているんだねと気がついてくれた4日間。3.11の経験は辛くても、何とか未来につながるかなと、こらっせに関わる皆が共通に願っています。健やかに、のびのびと、考え学び取ってゆくような子どもたちになってほしい。福島で頑張っている親御さんにもエールを送ります。(小山千鶴子)
- 福島からバスに乗って神奈川に来て下さったお友達、大学生の皆さま、楽しい時間をありがとうございました！ほんの数日間なのに、お互いに忘れられない楽しい思い出になったと思います。一緒にご飯を食べて、一緒に眠って、おはよう！と笑顔で、寝ぼけた？お顔であいさつ(*^^*)♪楽しかったです。ありがとうございました～*皆さんの笑顔大好き！(稲垣博美)

学童保育を訪ねて

子どもたちに神奈川に来てもらうだけでなく「こらっせ」も子どもたちに会いに行こうと、いわき市・檜葉町を訪れる双方向交流が「神奈川リフレッシュプログラム」の一環として昨年からスタート。その過程で大学生に学童保育の小さな子どもたちと遊んでもらえればという現地の声を聞き、大学生が自分たちで企画して学童保育のお手伝いに行っています。双方向交流の積み重ねで、お互いを理解でき、成長しあえ、元気になるのですね。



空の家は、児童館や研修会等
複数の役割を持っている

●第1期 3月26日(木)~27日(金)



子ども達の笑顔が忘れられません！



マンモス鬼ごっこで遊びました

●外で元気に走り回る姿や屋内でも柱をよじ登るアクティブな一面も見られ、遊ぶ環境の大切さに気付かされました。遊ぶ場があるからこそ子どものやすらぎ、心の成長を与えると改めて実感しました。今回限りではなく、また足を運ぶことで子どもに寄り添いながらサポートする機会を増やしていければと思います。

●事務局長である松本さんに檜葉町を中心に案内していただき、被災地を初めて目の当たりにして衝撃を受けました。4年たった今でも変わらぬ地を、海岸沿いを臨む高台から見て、現状を知ることの必要性や震災を風化させないことの重要性を強く思いました。この活動に関わられたことで意識が変わりました。



震災前後で大きく変わった、海沿いの景色は衝撃だった



テレビと現実では印象が大きく違うと学んだ



●第2期 3月30日(月)~31日(火)



お昼ご飯をいただきます！



みんなで将棋崩し！



ちゃんと背の順に並べたかな～？



- 空の家に用意されている遊び道具を使って遊んだり、グリコや馬跳びハイタッチゲーム等、体力の持つ限り（笑）一緒にしました。2日目には学生企画のレクリエーションを行い、私達だから出来ることを成し遂げられました。お別れの際には子どもたちみんなが笑顔で「また来てね」と送り出してきてくれました。
- 子どもたちと会うと、子どもたちのパワーに驚かされました。本当に元気いっぱい、室内でも走り回り、とにかく遊びたい！というような感じでした。保育士さんによると、普段は人手が足りず外に遊びに行けないこともあるそう。彼らが安全に思いっきり遊べるように気を付けることが第一に大切なのだと学びました。

●第3期 8月10日(月)～11日(火)



だるまさんが転んだを
全力で表現！



みんなでマミーすいとんを作りました

- いわき市の食生活改善推進委員の方々に教えてもらいながらマミーすいとんを作りました。午後は、室内でドッチボールなどレクをしました。子どもたちはとにかく元気いっぱい、まとめるのは大変でしたが良い経験となりました。多くの方にご協力いただき、本当にありがとうございました。
- 学童保育の指導員の方に、子どもたちの住んでいる場所がバラバラで、送迎ができない子は学童保育自体に来れないと伺いました。また、仮設住宅の様子から、人々の生活は大きく変わっていないように感じ、改めて現地での生活の大変さを知りました。学童保育に来た子ども達が楽しめる企画を今後も計画していきたいです。

空の家で教わったマミーすいとん（1人分）



檜葉町の名物料理・すいとんを
トルシエ元監督がおばあちゃんの味
だと「マミーすいとん」と名付けた

<材料>

鶏むね肉(皮なし)	20g
大根・ねぎ	30g
にんじん・ごぼう	20g
生しいたけ	10g
すいとん粉	30g
かつおぶし(だし汁)	150g
しょうゆ	6g
塩	0.5g

<作り方>

- ① かつおぶして、だしをとる。
- ② 鶏肉は、そぎ切り。大根・にんじんはいちょう切り。ごぼうはさがきにして水にさらす。しいたけは、うす切り。ねぎは、小口切りにする。
- ③ すいとん粉に、適量の水を加え団子を作り茹でる。
- ④ だし汁に、野菜を入れて煮立て、鶏肉を入れて煮る。煮えたら団子を入れて、しょうゆ、塩で味をととのえる。

ボランティア・スタッフ紹介

●学生ボランティア

粟ヶ窪瑠子／岩成銀河／梅津彩／大内万里／大町奈津美／影浦あゆみ／窪田桃子／駒木根怜／清水雅大
曾我部美琴／菅田薫／日高絵里菜／平戸萌子／松田優希／山崎由里恵

●市民ボランティア

オイドン／金澤あゆみ

●事務局スタッフ

稲垣博美／金子文夫／工藤妙子／小山千鶴子／遠野はるひ／中村信子／錦織順子／蜂谷隆／藤井あや子
山際正道／横山満里奈／若林智子

(50音順)

【楡葉のいま】

避難解除後「通学」7%

楡葉の小中生 学校再生道険しく

毎日 2015. 8. 1.

東京電力福島第一原発事故により全町村避難する自治体で初めて9月5日に避難指示が解除される福島県楡葉町で、解除後に町内の学校への通学を希望する小中学生が就学対象者の1割未満だったことが保護者を対象にした町のアンケート調査で分かった。31日に開かれた学校再開を議論する町の検討委員会で報告された。判断を迷う児童生徒を入れても15%程度だった。

【栗田 慎一】

全町村避難した自治体は7町村だが、古里の学校に解除後通学するが初めて。長期の全域避難を強いられる自治体の学校再生の難しさを裏付けられた。調査は子どもと保護者の意向を把握するため、7月初旬に県内外に避難中の就学対象者538人の保護者に郵送などで実施。約55%の295人が回答した。2016年4月に町内で学校を再開する場合、「通学」と回答したのは23人（就学対象者の約4%のみ。「戻らない」は216人（同約40%）、「迷っている」は46人（同約9%）だった。再開を先延ばしして17年4月にする場合は「通学」36人（同約7%）、「戻らない」200人（同約37%）、「迷っている」43人（同約8%）だった。楡葉町の矢内賢太郎教育長は調査結果について「児童生徒がこんなに減ってしまうのかという残念な思いと、通っている。」

放射線への不安が根強い中でこれだけの子どもが戻ってくれるのかという思いが交錯している」と話した。検討委は調査結果を受け、学校再開時期を避難指示解除から1年半後の「17年4月が妥当」と判断。解除後は学校再開までの間、町内から町立学校の仮校舎を設けている30ヶ所のいわき市までスクールバスを運行させることも求めた。町によると、今年度いわき市内の仮校舎に通う児童生徒は142人で、他は県内外の避難先の自治体の学校に通っている。

▲毎日新聞 2015年8月1日

◀朝日新聞 2015年7月7日

「こらっせ」は移動教室の実現を目標に活動をスタートしましたが、プログラムに参加してくれた子ども達を通じて地域間、世代間の「交流」の大切さを、この4年間余で実感しています。楡葉町の抱える困難な状況、山北町の方々のホスピタリティ、そして繰り返し参加してくれる子ども達・大学生達の成長を見る喜びなど、このプログラムがなかったら私達は知ることがなかったでしょう。

そして、福島子ども達を思う賛同人・団体、協力者のご支援抜きには、このプログラムは成立しません。今年は神奈川県から補助金をいただきました。深く感謝いたします。

私達の力はほんの小さなものですが、楡葉のそして福島子ども達の未来を、ここ神奈川で見守っていきたいと思います。

「福島子ども・こらっせ神奈川」事務局長 遠野はるひ

楡葉「全町避難」解除へ

9月5日、町長受け入れ

東京電力福島第一原発の事故ではほぼ全住民が避難を強いられている福島県楡葉町について、政府は6日、9月5日に避難指示を解除すると町側に伝えた。松本幸英町長は「伝達に従って取り組む」と受け入れる考えを示した。役場ぐるみで避難を続ける7町村では初め、本格帰還の第1弾となる。約7400人の町民の大部分は現在、県内外の仮設住宅や借り上げアパートなどで避難生活をしている。



避難指示が解除により、希望する人は町で暮らせることになる。ただ解除後も仮設住宅などは2017年3月まで無償で提供される。避難生活に伴う東電からの慰謝料も18年3月分まで払われることになっている。

大臣は6日の松本町長との会談で、町内の生活環境について「戻りたい住民に避難を強いなければならないのは危険な状況にはならない」と述べた。避難生活の長期化に伴う健康への影響や、企業進出が進まない点などの弊害を挙げ、解除は「復興をさらに進めるためのものである」とした。

政府は、①空間放射線量の低下②生活に必要なインフラやサービスの復旧③地元との十分な協議—とい

水源の不安「片付いてない」

東京・吉祥寺に避難する自営業遠藤藤昇さん(43)は「飲み水の問題が片付いていないのに解除なんて」と語る。息子の昇汰君(9)と楡葉に戻りたいが「木戸ダム」の水は息子には飲ませられない」と話す。

木戸ダムの湖底には高濃度の放射性物質を含む泥があり、町議会は湖底の浚渫を求めている。政府は、水道水からは放射性物質は検出されおらず現時点で安全だと説明。泥の除去は技術的に難しいと応じない考

ご支援・ご協力をいただいた方々

旭区役所地域振興課／大滝キャンプ場／神奈川県教職員組合／神奈川県高等学校教職員組合／神奈川県内広域水道事業団／神奈川県広域水道サービス(株)／神奈川県バス協会／(株)あさかの旅工房／自治労神奈川県公営企業労働組合／丹沢荘／榎葉町教育委員会／榎葉町立榎葉中学校／榎葉町立榎葉南北小学校／2010 オリーブの木／福島県教職員組合／三菱みなとみらい技術館／山北町長 湯川裕司／山北町役場／山北町教育委員会／山北町立三保小学校／横浜コスモワールド・泉陽興行(株)／横浜市教職員組合／ランドマークタワー・三菱地所グループ／横浜YMCA(梶谷和宏)
(五十音順)

賛同団体

WE21 ジャパンいそご／WE21 ジャパンこうほく／WE21 ジャパンさかえ／WE21 ジャパンとつか／WE21 ジャパン藤沢／WE21 ジャパンよこすか／宇都宮女子会／MD 女子会／2010 オリーブの木／神奈川県教職員組合／神奈川県高等学校教職員組合／神奈川県広域水道サービス(株)／神奈川平和遺族会／(株)すこやかコーポレーション／(株)プレミアバンク／相模鉄道労働組合／相模原商事(株)／週刊金曜日を応援する会・神奈川／神高教シニア運動／ストップブルトニウム神奈川連絡会／全水道神奈川県支部／ピピ保育園・夏祭り実行委員会／ふれあいフェスタ中川／ユニオンヨコスカ／横浜市立港中学校・生徒会厚生委員会／W.CO花もめん／W.CO森のはらっぱ (五十音順)
8月25日現在 27団体

個人賛同協力者

姉歯友子／荒川淳／安西香取／五十嵐弘子／石川美紗緒／石下直子／石坂美重子／石塚光行／市川和子／井出都／伊藤照子／稲垣博美／岩瀬恵子／岩田容子／植田美紀子／上野勝／内田喜代子／内田ハル子／蛭谷康一／梅津弘子／益塚初枝／大治朋子／小笠原三枝子／岡野三郎／小山千鶴子／鍵山賀子／加藤美恵子／門間基博／金澤あゆみ／金子文夫／鎌田広将／亀井君枝／川平直子／北野正子／木村勝利／木村早苗／桐谷伊佐子／日下景子／工藤妙子／國井哲男／久保新一／久保博夫／熊倉成和／倉田謙／黒澤知弘／高力英夫／小海憲子／古座野郁子／児玉勇／児玉王子／五反田能子／五藤久枝／坂井信夫／酒井亮介／坂上美代子／坂巻フミエ／佐々木紀子／佐々木智子／佐藤登貴子／佐藤みつ／佐藤公彦・令子／佐野花子／佐野清文／地代所達也／篠崎栄子／四宮みどり／清水郁子／杉田恵子／杉山佳津江／鈴木江郎／鈴木操／鈴木遊／高木道子／高梨晃嘉／高野克美／高橋厚子／高橋祥夫／高橋美智子／武川定夫／竹田邦明／立岡英宏／田沼時代／千野紀美子／千村和司／塚本鉄男／柘植敬子／露木順一／鉄地河原清美／月野和陽右／土井昌治／遠野はるひ／戸田真由美／中川登志男／長崎羊子／永瀬裕子／永峯文男／中村潔／中村信子／中山雅子／西川豊子／錦織順子／新川眞・順子／沼里和幸／野口いづみ／箱守初代／蜂谷隆／原ヨシ子／東祐司／廣途子／府川和代／福川世志明／福島健太郎／福島玲子／藤井あや子／藤島政彦／藤見睦彦／藤本泰成／古河和男／古川文乃／風呂橋修／本庄サクラ／本間尚子／前田正裕／巻山美和子／松本明子／真矢公子／真山壮／三尋木裕介／三輪純子／向田映子／武藤一羊／村瀬朋子／村田一利／村田隆／村田弘／村田由美子／森美智子／森幸子／森下育代／森谷牧子／八島忠義／梁島暁美／山際正道／山城保男・恵子／山田勇／山田俊子／山田美智子／山西道子／山本明德／横山満里奈／吉田哲四郎／吉田明(横浜市)／吉田明(町田市)／吉野裕之／若林智子／渡辺正子 (五十音順)
8月25日現在 159名

リフレッシュプログラム決算報告 (2015年8月25日現在)

収入の部		支出の部	
会費収入	100,000 円	宿泊及び食費(山北町・丹沢荘)	808,850 円
寄付金	829,535 円	交通費(バス送迎代・ボランティア交通費)	503,038 円
参加費収入	69,000 円	保険料(プログラム保険)	16,824 円
神奈川県ボランティア活動補助金	750,000 円	山北町イベント、横浜散策	157,822 円
		事前交流、調査、渉外など	76,401 円
		運営費(通信費、広報費、事務費)	139,187 円
		〃 (会議会場費)	17,788 円
		雑費	12,092 円
収入合計 1,748,535 円		支出合計	1,732,002 円
		後期活動費	16,533 円



「神奈川リフレッシュプログラム」2015年報告書

発行日 2015年9月10日

編集・発行 「福島子ども・こらっせ神奈川」

TEL:045-353-9008 FAX:045-353-9998

E-mail:info@korasse-kanagawa.org

写真 蜂谷隆他 表紙 メリノ 制作 事務局